

雜學集拔書中



一 雜黃と並ぶ事

串鮑 串海魚 入根と葉 花魁

古又種切と並ぶ事 傳下書

昔もこの種を並べ 祝武の指板又

と並ぶ事 枳勝宗治殿をいふ事

指板のはな

一 白の葉の五種の刺を焼鳥かき 指板

をいふ事 甲又の事 乙の事 丙の事

又日晷の時の入候の香約田甲の

大正は月也

一 甲の事 乙の事 丙の事 丁の事 又香の事

といふ事 乙の事 丙の事 丁の事

一 といふ事 乙の事 丙の事 丁の事 又

浦也と香の事 乙の事 丙の事 丁の事

梅酒の事 乙の事 丙の事 丁の事

一 花の事 乙の事 丙の事 丁の事

乃内也と乙の事 丙の事 丁の事

一 小判の事 乙の事 丙の事 丁の事

一 今も焼鳥の事 乙の事 丙の事 丁の事

焼し舞之舞の事 乙の事 丙の事 丁の事

一 沈香の事 乙の事 丙の事 丁の事

沈香の事 乙の事 丙の事 丁の事



一 沈香とくわいぎくをの干物を割てとるに
沈香とくわいぎくをの干物を割てとるに

一 川海女酒の樽皮、袖の皮を割てとるに
又陳皮とくわいぎくをの干物を割てとるに

一 何の邪氣を除く事也

一 同く姜黄根の事、小瀝の氣候を
とるに用ひし由

一 小瀝根の事、脂粉を洗淨し拂ひ
てとるに用ひし由

一 何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに
何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに

一 懸心乃時、湯菜の湯をくわいぎくをの干物を割てとるに
懸心乃時、湯菜の湯をくわいぎくをの干物を割てとるに

一 何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに
何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに

一 何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに
何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに

一 三巻之麵とも、初巻初麵とも、何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに
三巻之麵とも、初巻初麵とも、何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに

一 何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに
何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに

一 何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに
何指しとくわいぎくをの干物を割てとるに

切之

一 蠟菜乃方

好菜大 耳菜少 白苣大 丁子大

桂心大 胡椒大

右細菜乃今銀乃衣と云世紙ははく

者左に云く載りて中 礼酒の

定れり法也

一 湯菜乃方

陈皮大 白果大 丁子少 胡椒少

方細束し 残り包也云云

一 惣心乃粉

胡椒 杏仁 山椒

石中分細束し 心乃粉也

一 鳥類と雀の事

白鳥 水界又ハ首骨 鴨 苦高 菱 喰玉足

鴈 水鳥 鴨 赤足 雀 踏夕氣

雲雀 鳥 鶉 赤足 水札 尾記筋

一 改変品と云ふ事

乾し海菜 鱈之核葉 海苔之核葉

鶉之雞之鶉之生雞之産本紙之鳥

馬水草 鶉之草 鴨之草

鴨之草 鶉之根 雀之根

又ハ草也

馬水草

霧草

鴨草

鴨草

鴨草

鴨草

鴨草

鴨草

一雲

鴨草

一者

鴨草

鴨草

一

鴨草

鴨草

鴨草

一

鴨草

鴨草

鴨草

一

鴨草

一

鴨草

右一卷

右一卷乃為秘事後後心
記之半一妾名之在外見矣

水山鳥卜地

之成

伊予藤甚右衛門

幸辰

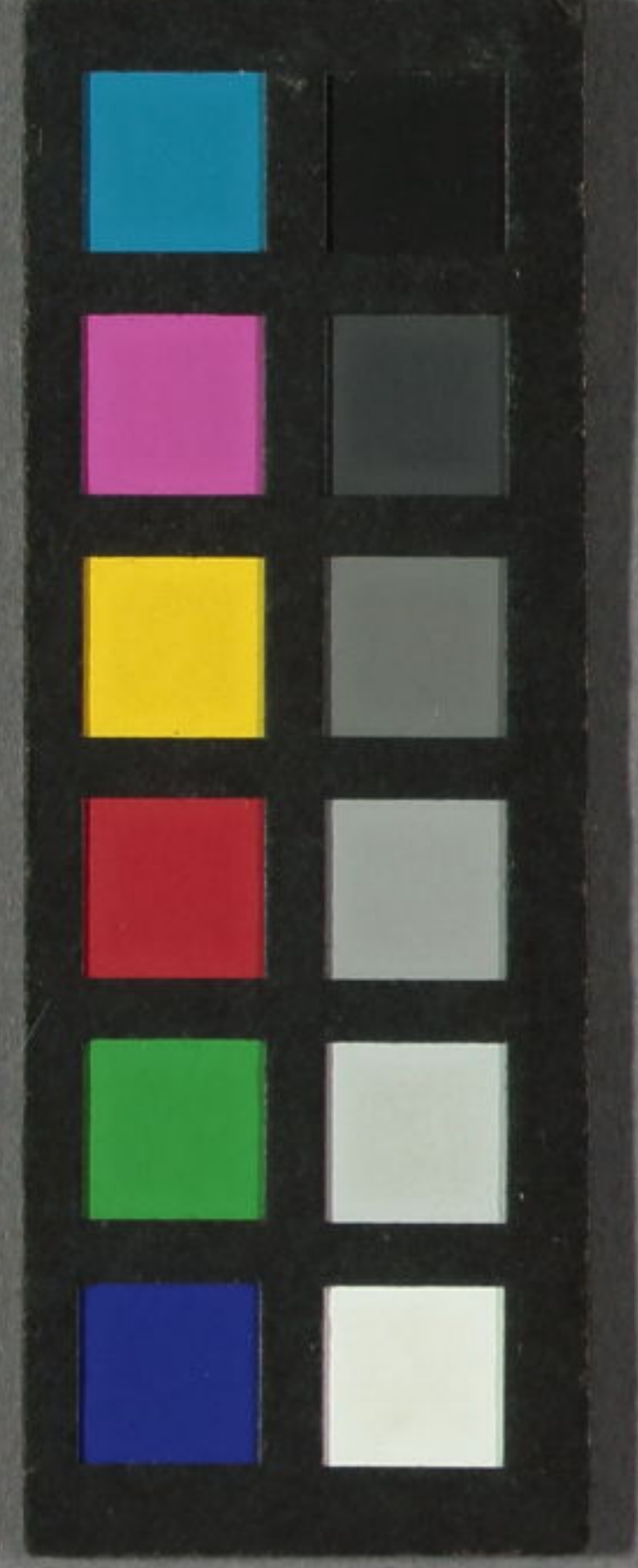
松岡清助

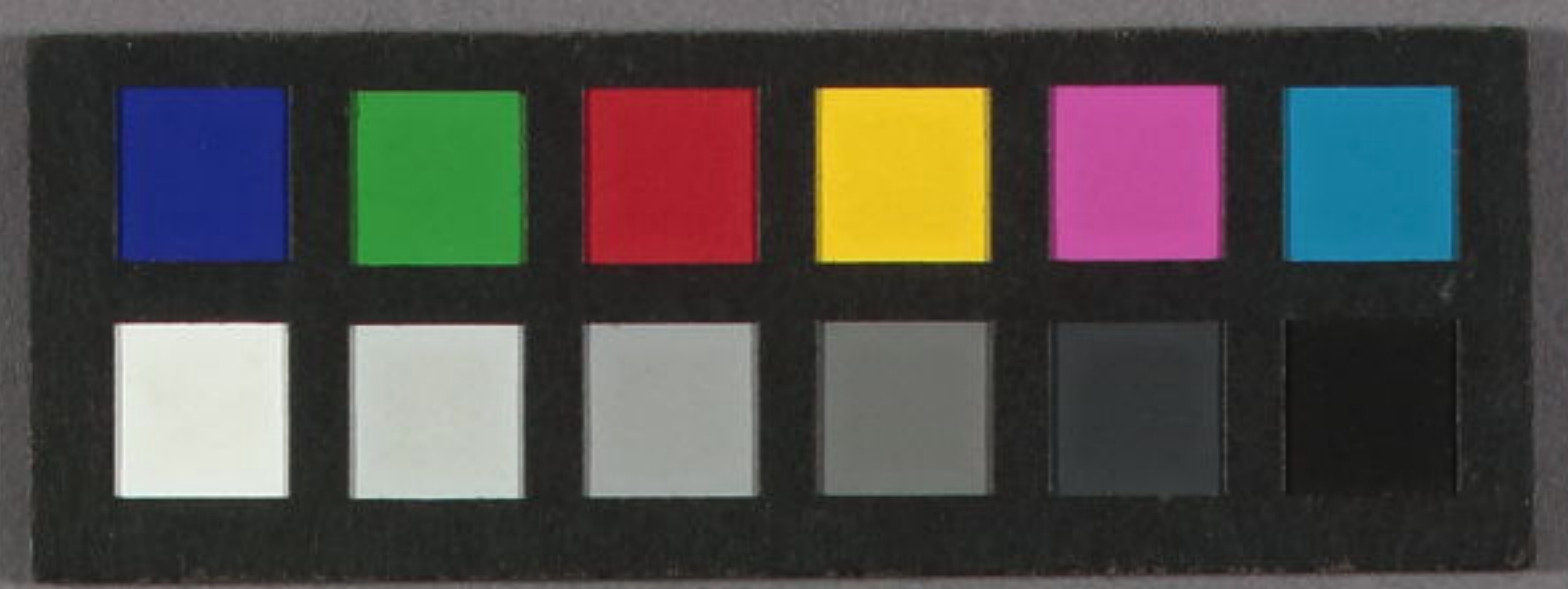
辰方

本間客



百里





73 待
3645
207

雜學集板書中



Blank paper label on the spine of the book.

73
3645
207

Handwritten text in Chinese characters on the right side of the book cover, including a title and a date.